

サクラひろば

令和2年7月20日発行
第4号

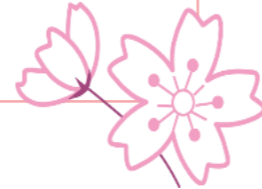
発行2年目となった「サクラひろば」。東日本大震災から10年目を迎える今年度は、3つの地域学校協働本部の活動紹介と共に、震災の学びについて各号で特集し、紹介していきたいと思えます。

「10年」復興から学ぶ

～ふるさとの復興を担う『人づくり』宮古小学校～

復興教育推進モデル校としての役割をもつ宮小ではありますが、自分の命は自分で守るという「津波てんでんこ」の考えをどう徹底し、ふるさとの復興を担う子供達を育成するのかを考えたのが、宮小の復興教育の始まり。震災の学びを体験だけで終わらせるのではなく、日頃の授業を通して「自分から」かわり、学びを深める『人づくり』をテーマに、子供達の育成に取り組んでいます。

また、様々な人と繋がり、震災や防災について地域の思いや活動の様子を学んでいます。7月には、PTAとして親子で楽しみながら避難場所を確認するハザードウォークラリーを実施。本物と触れあう学びの充実を図ることで、生きる力や創造する力の深まりを目指しています。



～第一中学校～

震災を伝えていくために

【2学年 震災学習 (5/26)】

みやこわが町編集長の橋本久夫さんをお招きして、震災当時のお話やタウン誌の編集を通して、震災を伝えていくことやその伝え方を学びました。津波に関して「心の防波堤を高くして」という橋本さんのお話が印象的でした。



花を飾り、地域を元気に

【ボランティア活動 (6/13)】

「昭和通りのおかみさんもてなしたい」による、ハンギングバスケットづくり等のボランティア活動に58名が参加。宮古駅前のプランターや花壇の整備など、花を飾ることで地域が元気になるように、地域の皆さんと一緒に心を込めた活動を行いました。



第一中学校地域学校協働本部 地域コーディネーター 金野 侑

～山口小学校～

心強い助っ人、学習ボランティア

感染症対策に留意して、保護者、地域の方に4年生キャップハンディ体験、5年生と6年生の家庭科実習補助をしていただきました。グループごとにボランティアがつくことで、きめ細やかな目配りができます。わからないことをどんどんボランティアさんに聞いて、学習を進めることができました。先生とは違う意味で、たよりになる大人の存在は子どもたちの成長を助けてくれるのだと感じました。

読み聞かせ、スタート

年度初めに活動を見合わせていた読み聞かせが、6月から始まりました。今年は、昼休みの絵本の部屋での活動はお休みにして、朝読書の時間に一クラスずつ巡回していただいています。1年生の頃から読み聞かせを楽しんできた高学年も、じっくりと耳を傾けていました。自分で選んで読む読書体験も、誰かが選んでくれた本を楽しむ体験も、子どもたちの心の糧となっています。



安全指導で事故防止

山口団地自治会交通安全指導隊、スクールガード、そして交通指導員の皆様が登下校時の通学路で声かけと目配りをしてくださっています。今年は時折出没する熊のために突然の集団下校もありましたが、その都度対応していただきました。

山口小学校地域学校協働本部

地域コーディネーター 佐々木 良恵



～宮古小学校～

子供達を支える温かな見守り

様々な自粛に緊迫した状況で始まった今年度。子供達を取り巻く環境にも大きな影響が及びました。そんな中、宮小に届けられたのが、地域の方からの手作りのお手玉。どんなに心温まり、元気をもらったことでしょう。

また、子供達が少しでも明るく楽しい気持ちになってくれたらと、花壇への花植え、生け花のボランティア、そして図書ボランティア「おひさま」の皆さんも、感染防止策を取りながら、図書室の装飾を続けてくださいました。

活動開始

6月から、読み聞かせを皮切りに、少しずつですが子供達との活動がスタート。図書祭りお話し会では五感を使っの読み聞かせに子供達の笑顔が広がりました。



宮古小学校地域学校協働本部

地域コーディネーター 大村 光代



第 5 号 2020年12月発行予定

編集：第一中学校地域学校協働本部 (0193-62-4209)
宮古小学校地域学校協働本部 (0193-62-2009)
山口小学校地域学校協働本部 (0193-62-2723)